

第4回 駿河海岸漂砂管理計画検討委員会

議事要旨

1. 日時および場所

日時：平成17年8月9日（火）

14:00～16:30

場所：焼津市消防防災センター 4階多目的ホール

2. 議事次第

1) 開会

2) 主催者挨拶

3) 委員長挨拶

4) 議事

第3回委員会議事要旨及び検討フローの確認について

モニタリングの結果報告について

試験突堤下手の侵食対策について

漂砂管理計画について

今後のモニタリング計画について

その他

5) 閉会

3. 第3回委員会議事要旨及び検討フローの確認について

- 第3回委員会における各委員からの意見を取り纏め報告と確認を行った。
- 第1回から第4回までの検討フローの確認を行った。

4. モニタリングの結果報告について

(1) モニタリング調査の説明内容

大井川河口モニタリング調査

越波区間（藤守川～栃山川）の緊急離岸堤設置の経過報告

(2) 調査内容に対する意見等

- 河口部の土砂変化量は、対象とする測量区域を明確にして流出量との関係を算出すべきである。
- 大井川は、河口中央部の砂州が切れなくても、1洪水で50万m³程度の土砂供

給量があると考えられる。

- 緊急離岸堤に関しては、貯まった量と侵食量がほぼ整合していることから、沿岸方向のある部分の漂砂量を離岸堤がトラップし、その影響が下手側に出たものと思われる。
- 緊急離岸堤の前面及び背後の地形変化状況から、漂砂は離岸堤岸側の堆積が飽和状態となり、沖側を回りこんで下手側に移動していると考えられる。
- H17 年度施工予定の緊急離岸堤 1 基による下手側への影響は、比較的小さい範囲で収まると考えられるが、モニタリングの継続は必要である。

5. 試験突堤下手の侵食対策について

(1) 説明内容

検討の経緯

対策案の検討

検討にあたっての基本方針

侵食抑制効果の検討

対策案の選定

選定工法の概略諸元の検討

設置にあたっての留意事項

(2) 検討内容に対する意見等

- 結論として 3 基の短突堤に養浜を組み合わせる安全度を上げる対策が現実的である。
- 短突堤の施工は、3 基をできるだけ同時期に行なうのが望ましい。
- 養浜の時期についても短突堤の施工からあまり時間を空けないのが望ましく、投入場所や時期をずらすなど養浜の利点であるフレキシビリティを活かした対応を考えること。
- 波が収れんする 13 周辺の地形変化は、モニタリング等で監視する必要がある。

6. 漂砂管理計画について

(1) 説明内容

駿河海岸の概要

海岸の侵食状況と保全の課題

駿河海岸に関する海岸保全計画

漂砂管理計画の検討

漂砂管理計画（案）

駿河海岸の長期的な漂砂管理について

(2) 検討内容に対する意見等

- 大井川左岸海域の回復は大井川港南防波堤の存在や、大井川の土砂環境変化などの影響を受けて、昔とは大きく異なっている。自然に任せておいて昔の状態

に戻ることはないので、人為的な手助けで少しでもより良い海浜再生の方向に持っていくことが必要である。

- 海岸侵食の問題は、ダムの堆砂状況の変化、河道部とテラス、海岸沿岸全体の変化など流砂系全体の土砂の動きを根気よく把握する努力が必要である。
- 暫定案では現状維持しかできないので、できるだけ早く基本案へ移行するよう努力すること。そのためには、基本案の養浜量 10 万 m³/年については、どこから持ってくるかを検討する必要がある。
- 養浜量 10 万 m³/年を確保するため、海底谷や洪水時における河口沖への土砂損失を捕捉する方策についても検討する必要がある。
- 養浜の投入箇所は、全体の安全性が上がるように今後海浜の変形状況あるいは安全性を見ながら投入箇所を変えていく柔軟な対応が必要である。
- 大井川港南防波堤前面の区域は、左岸域へ土砂を流しやすくするための方策を考える場として将来確保すべきであり、土砂が河川から海岸に流れる自然のプロセスをもとに戻すように港湾事業との調整をはかる必要がある。

7. 今後のモニタリング計画について

- (1) 説明内容
モニタリング計画(案)
- (2) 検討内容に対する意見等
 - モニタリング計画(案)について特に問題はない。
 - 大井川全体の流砂系の土砂移動実態について、大井川の整備基本方針や整備計画の策定の中で明らかにしていき、その成果を海岸保全に活かすようにする。

8. その他

- 試験突堤下手対策の詳細設計や整備の具体案について、各委員に情報を流すとともに必要に応じて個別説明を行って進める。